令和６年度第４回大分県総合教育会議 議事要旨

【日 程】

日 時　令和７年３月１３日（木）

開会1６時００分　 閉会１７時００分

場 所　県庁本館正庁ホール

【出席者】

大分県知事 佐 藤 樹 一 郎

大分県教育長 　 山 田 雅 文

大分県教育委員 高 橋 幹 雄

大分県教育委員　 鈴 木 恵

大分県教育委員　 岩 武　茂 代

大分県教育委員　 岡 田　豊 弘

大分県教育委員　 藤　田　　敦

【協議事項】

（１）令和７年度 教育の主要施策について

（２）県と市町村が連携した文化財の活用による地域活性化及び誘客促進に

　　　ついて

【発言要旨】

協議事項（１）令和７年度 教育の主要施策について

（要旨）

　・高性能の機器やソフトが整備されたことで以前より質の高い遠隔授業が提供できるようになった。また、対面よりも気軽に子どもが発言できるということもあり、今後の可能性に期待。

　・小学校への登校支援員の配置やフリースクールへの支援、児童相談所の児童福祉士増　　員により、子どもや教育に対するきめ細やかな支援体制が強化。

　・総合教育会議で議論をした結果、新たな施策が生まれることにつながった。学校だけ　　で頑張るよりも様々な所と連携をして学校教育をより良いものにしていくことが大事。

・遠隔授業の画質向上も、タブレット端末の配備もそうだが、大分県は教育にお金を割いてくれており非常に良い環境だと感じる。（鈴木委員）

・生徒にしてみれば、面と向かって言いにくいことも逆にオンラインなら言えるということもあり、遠隔授業の可能性が非常に期待できる。（山田教育長）

・児童福祉士が増えたおかげで、1人当たりの担当ケースが減り、児童1人1人をより丁寧に見られるようになった。結果的に児童養護施設から家庭復帰できるケースが増えてきた。（岡田委員）

・多様性を大事にした支援の必要性について、以前、総合教育会議で議論いただいた結果、小学校における登校支援員の新設という施策につながった。（知事）

・教員は小中学生にとって憧れの職業の上位に大体入っている。教員のPR動画に自分の担任の先生が映っていれば、子どもにとってさらに良い仕事だと思ってもらえる。非常に良い取組。（藤田委員）

・令和７年度の施策全体でもそうだが、教育大綱においても連携という言葉がたくさん出てくる。この連携というのが大きなキーワード。学校だけで頑張らずに、みんなから協力を受けて学校教育をより良いものにしてもらいたい。（岩武委員）

【発言要旨】

協議事項（２）県と市町村が連携した文化財の活用による地域活性化及び誘客促進に

　　　　　　　ついて

（要旨）

・大分県内の歴史的な町や文化施設をバス等で繋ぎ、文化だけでなく食事なども楽しめる周遊プランを企画すること等で地域の観光周遊が期待される。

・県内の子どもたちが地元の歴史や文化を学び、将来的に地元に定住する可能性を高めるため、子どもボランティアサミットの開催や子どもガイドの育成など、主体的な学習の機会を提供することが重要。

・少子化等による担い手不足は深刻で、祭りなどの伝統文化継承が危ぶまれている。記録　やガイドライン整備など、地域住民の意見の取りまとめ等も含めて継承体制の構築が必　要。

・例えば佐賀関ではモビリティバスが周遊している。埋蔵文化財センターと駅を結ぶなども考えられるし、大分市内だけではなく、臼杵や杵築にも歴史がある町はたくさんある。モビリティバス等で文化施設等を結び、食べ物を加えて周遊など企画していくと面白いのでは。（高橋委員）

・子どもボランティアサミットのようなものを大分県内でやったら面白い。大分の歴史を知っておかないと、県外に出た時にお国自慢ができない。ボランティアガイドには認定試験などもあると思うが、県内でそういう子どもたちを集めて勉強会等のネットワークを作るのはどうか。（高橋委員）

・県内定住を促進するためには、子どもの地元愛を育むことが重要であり、教育の中でお国自慢ができる子どもを育成することは大事。（山田教育長）

・地域に子どもが住んでいない、お祭り等の文化の継承ができないという非常に厳しい状況。記録を残すにしても、何かしらのガイドラインみたいなものがないと地域住民の意見もバラバラでまとまらない。（鈴木委員）

・以前お祭りといえば日にちは固定であったが、最近は、神事は神事としてその日に行い、集客や人手の必要な行事は土日にするという変更をしたところ、すごく若い人の参加が増えた。見直すべきところは見直す必要がある。（高橋委員）

・歴史教育、社会科教育という観点から考えた時に、文化財や史跡などの歴史的な事実を理解　することも大事だが、その背景にある人の生き様や考え方も大事。なぜ神楽が必要だったのか、　お祭りをすることで、その時代のどういう課題をどう解決したのかなど。それを子どもがガイ　ドとして説明できるような取り組みができると教育的にすごく良いと思う。（藤田委員）